

トップメッセージ



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申しあげます。このたび代表取締役社長に就任いたしました丸野正でございます。これまでの各社長が築いてきた「浜松ホトニクス」を更なる高みに昇華させるため、今後も社会環境の変化にスピード感をもつて的確かつ柔軟に対応し、グループの総合力を最大限に発揮することに努め、株主の皆様のご期待にお応えできるよう邁進してまいります。

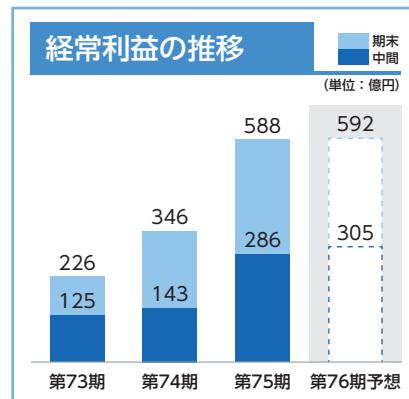
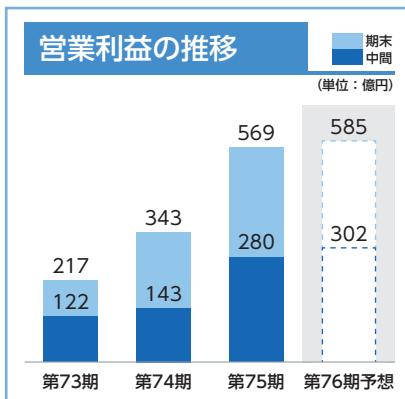
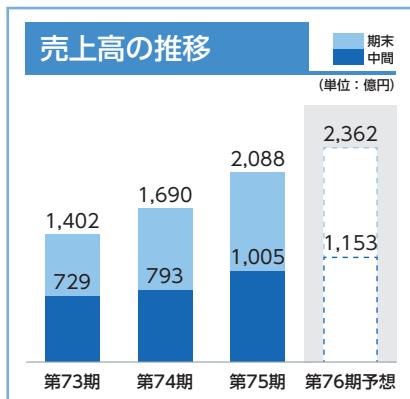
さて、第75期（2021年10月1日から2022年9月30日）における事業の概況につきまして、ご報告をさせていただきます。

当連結会計年度におきまして、当社グループは、新型コロナウイルスの感染防止策を講じた上で、生産能力の増強に向けた設備投資を継続するとともに、持続可能な社会への貢献を念頭に、当社独自の光技術を活かした研究開発・製品開発に取り組むことで、売上高、利益の増加に努力してまいりました。

なお、当連結会計年度の業績につきましては、国内売上げ、海外売上げともに増加いたしました結果、売上高、利益とも過去最高となりました。

当社グループを取り巻く経営環境につきましては、一部で企業収益や設備投資に持ち直しの動きがみられたものの、新型コロナウイルス感染症の再拡大や長期化する部材の調達難

連結財務ハイライト



ウクライナ情勢の影響のほか、世界的な金融引き締めによる景気後退懸念など世界経済の先行きは不透明な状況のなかで推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループの足元の状況としては、医用、産業、分析分野等の主要な業界において、前期からの好調さを維持し、引続き売上げを伸ばしました。特に、世界的な5Gやデータセンター等の半導体関連需要の拡大を背景として、産業用機器向けの半導体関連製品が業績を牽引したほか、医用・バイオ機器も堅調に推移した結果、好業績を達成いたしました。

このようななか、新たな経営体制のもと、当社が将来にわたって成長し発展するためには、光の無限の可能性を追求するという創業時からの経営理念を継承し、失敗を許容し新しいことへのチャレンジを後押しする企業風土を維持することが重要であると考えております。

この経営理念を基本とした上で、製造業の基礎であるモノ作りにおきましては、基幹のデバイスに付加価値を付け

たモジュール化を全社的に推進すべく事業部間の連携強化を図るとともに、レーザ事業を新たな事業の柱とすべく注力してまいります。また、中央研究所と事業部との技術・人材の交流を深め、新しい応用技術の事業化を加速させてまいります。このように、全社的な連携を重視してそこから生まれるシナジーを最大限発揮させることにより、中長期的な事業拡大を目指してまいります。

当社グループといたしましては、創業当時のベンチャー精神を忘れず、持続可能な社会の実現に向けて、環境、社会的課題など様々な問題にも光技術で貢献することで、企業価値の向上に努めてまいります。

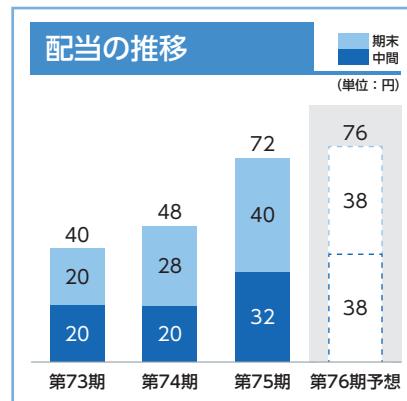
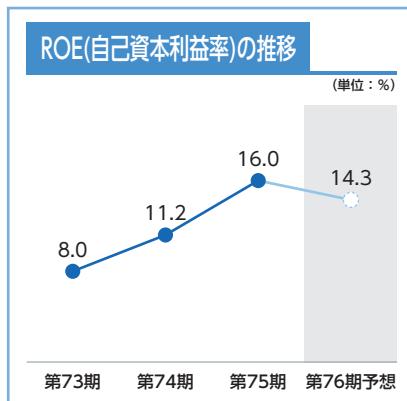
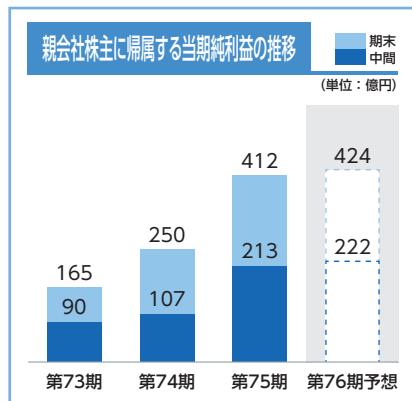
なお、株主の皆様のご期待に報いるため、期末の配当金を40円とさせていただきます。これにより、年間の配当金は1株につき72円となり、前期より24円の増配となります。

株主の皆様におかれましては、これまで以上のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

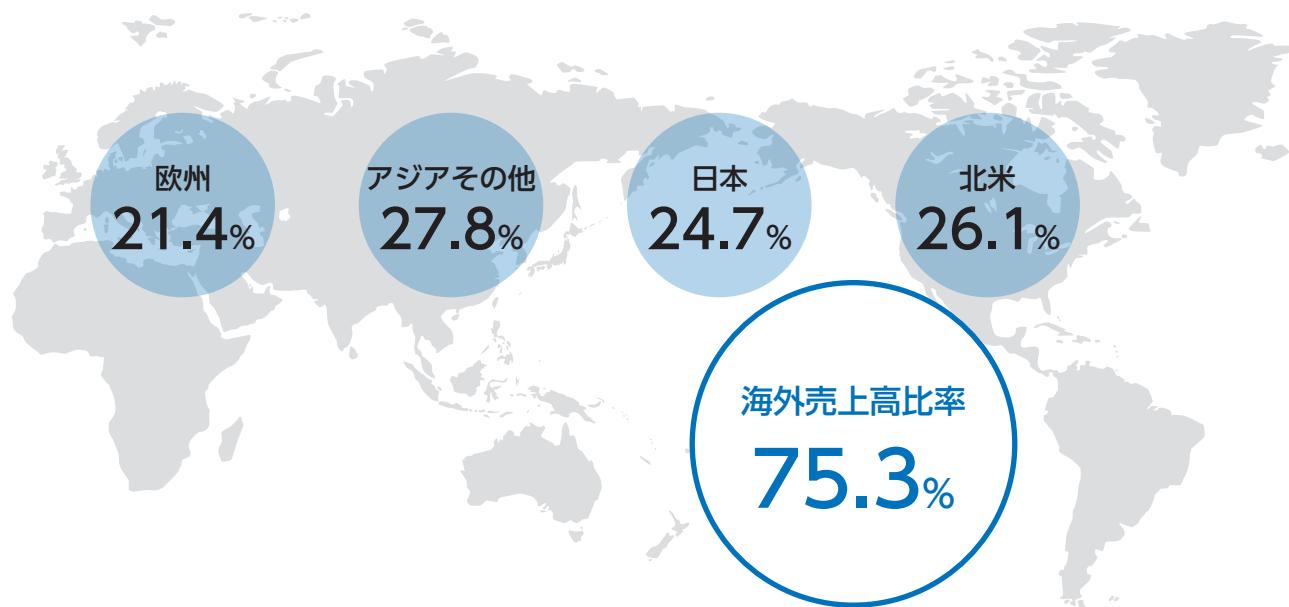
2022年12月

代表取締役社長

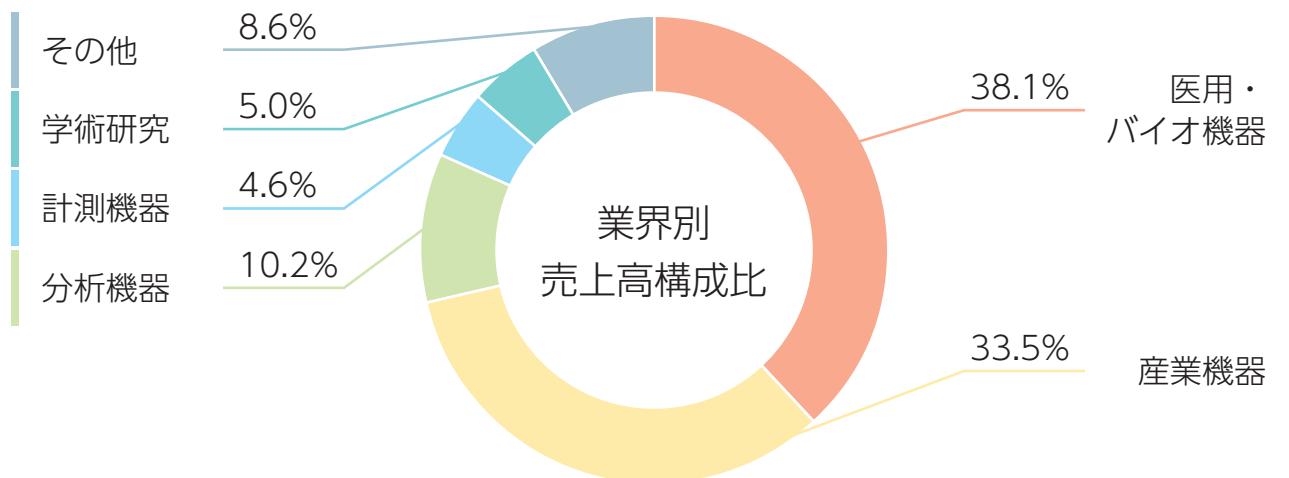
丸野 正



地域別で見る浜松ホトニクス



業界別で見る浜松ホトニクス



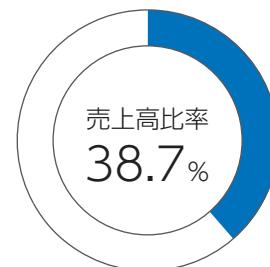
事業の概況

電子管事業



売上高 **808** 億円 (前期比 **24.8** %増)

- 産業分野において、非破壊検査用のマイクロフォーカスX線源が、EV（電気自動車）生産の拡大や世界的な5Gの普及に伴い、車載用バッテリー検査や基板検査向けなどアジアを中心に売上げが増加
- シリコンウェハを高速・高品位に切断するステルスダイシングエンジン及び半導体検査装置向けの光電子増倍管や光源の売上げが、世界的な半導体設備投資の活況を受けて増加
- 医用分野において、フローサイトメーターなどの検体検査装置向け光電子増倍管が、国内外で需要が増加し売上げが増加

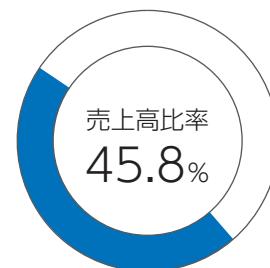


光半導体事業



売上高 **955** 億円 (前期比 **22.7** %増)

- 半導体製造・検査装置向けのイメージセンサ等の売上げが、世界的な半導体需要の高まりを受けて増加
- 産業用ロボット等の制御などFA分野におけるフォトIC、フォトダイオード及びLEDの売上げが増加
- 医療分野においては、X線CT向けのシリコンフォトダイオード及びPET用MPPC®の売上げが国内外における継続的な需要の高まりを受けて増加



画像計測機器事業



売上高 **266** 億円 (前期比 **23.8** %増)

- デジタルカメラの売上げが、生命科学やバイオ分野に加え、新製品の投入により量子や天文などの物理分野においても増加したほか、海外におけるDNA検査向けも増加
- 病理デジタルスライドスキャナの売上げが、引続き欧州において増加
- 半導体故障解析装置の売上げが、アジアを中心に国内外で好調に推移



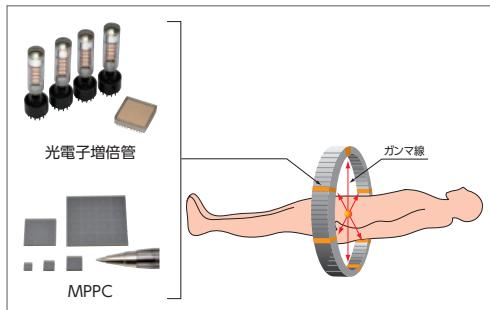


医用・バイオ

がんや認知症を検査する



がんや認知症等の診断に用いられるPET検査は、体内の検査薬から発せられるガンマ線をとらえて生体内部の活動を画像化します。そのガンマ線の検出器として、当社の光電子増倍管、MPPCなどの高感度な光センサーが使われております。



▲PET検査の概念図

光の波長

ガンマ線



産業

壊さずに物体の内部を検査する



X線非破壊検査は、対象物にX線を照射し、透過したX線を検出することで対象物内部を非接触・非破壊で見ることができ検査手法で、食品の異物混入検査など様々な分野で用いられております。このX線源に、マイクロフォーカスX線源や軟X線源、検出器に、X線ラインセンサカメラなどの当社製品が使用されております。



▲X線非破壊検査用のX線源及びX線センサ

▲食品パッケージ内の異物検出（水色箇所）の例

光の波長

X線

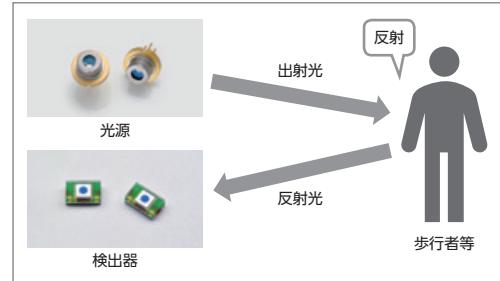


輸送

自動車の先進技術を支える



LiDARは、光源と検出器を用いて周囲の歩行者や車、建物等との距離や位置関係を測定するリモートセンシング技術で、「自動運転システムの眼」として有望視されています。このLiDAR用光源や検出器として、当社のパルスレーザダイオードやフォトダイオード等が使われております。



▲LiDARの概念図。対象物に光を照射し、その反射光を検出器でとらえて距離を測定します。

光の波長

赤外線

統合報告書

当社の中長期的な価値創造について、財務・非財務の両面からお伝えしております。

<https://www.hamamatsu.com/jp/ja/our-company/sustainability-and-csr/integrated-report.html>



統合報告書



業界別で見る浜松ホトニクス

当社の製品や技術の応用例を動画で分かりやすくご紹介しております。

https://www.hamamatsu.com/sp/hq/virtual_showroom/ir/ja/vr/index.html



■当社子会社「浜松ホトニクス・コーポレート・ベンチャー・キャピタル株式会社」を設立

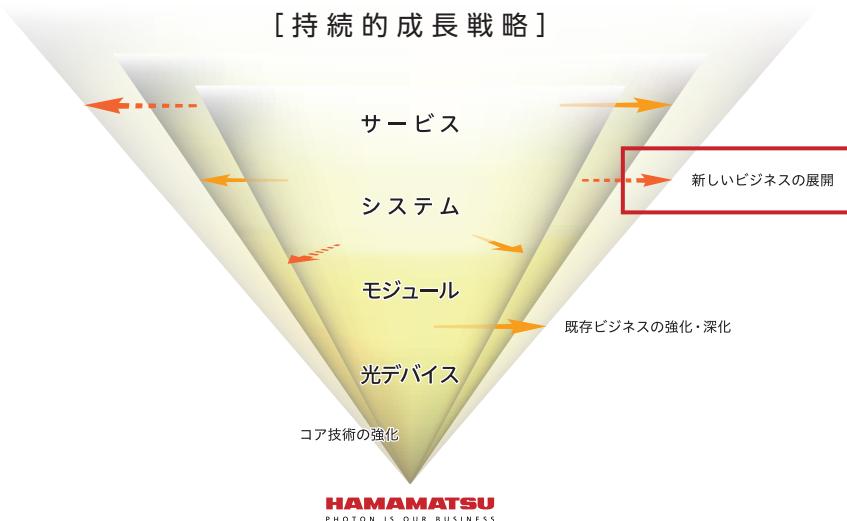
2022年10月、当社は国内外のベンチャー企業への投資活動を事業とする子会社「浜松ホトニクス・コーポレート・ベンチャー・キャピタル株式会社」を設立いたしました。

一般的な産業構造は最終製品メーカーを頂点としたピラミッド型ですが、当社が属する光応用産業の構造は逆ピラミッド型で、上に向かって産業の規模と範囲が広がっていきます。当社はそのボトムに位置し、お客様の最終製品の性能を高めるための要素技術「Key Enabling Technology」である光センサや光源などのデバイスを提供しております。そして、この逆ピラミッドの角度、いわば光応用産業の範囲を内外から広げて

いくことが光応用産業の持続的な発展につながるものと考えております。特に、投資を通じた社外のベンチャー企業との連携は、光産業における新たなアプリケーションを創出し、このピラミッドを外側から引っ張る大きな力になると認識しております。

当社はこれまでも、光技術の応用で新ビジネスを目指すベンチャー企業を発掘し投資を行ってまいりましたが、スピード感が求められるベンチャー企業への投資をより効率的に進めるため、浜松ホトニクス・コーポレート・ベンチャー・キャピタル株式会社を設立することとなりました。

同社の活動を通して、医用分野や産業分野をはじめ様々な分野において、当社グループにはない光技術を持った企業とのシナジー効果による新しいイノベーションの創出、お客様自身も気付いていないニーズの先取りをより一層進めてまいります。一方で、当社創業当時のベンチャー精神は忘れることなく、既存事業の強化・深化にも努めてまいります。

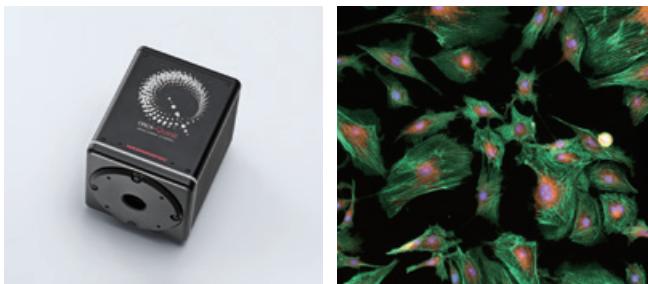


▲光応用産業の構造の概念図。ベンチャー企業への投資を通じた連携により、新しいビジネスの展開を促進します。

■科学計測用デジタルカメラ「ORCA®-Quest」が「Innovation Award 2022」でCategory Winnerを受賞

2022年4月にドイツで開催された世界最大級のレーザーや光技術の国際展示会「LASER World of PHOTONICS」が主催したコンペティション「Innovation Award 2022」にて、当社の科学計測用デジタルカメラ「ORCA-Quest」がBiophotonics & Medical Engineering部門でCategory Winnerを受賞いたしました。Innovation Awardとは、同展示会に出展された製品の中から、光学やレーザー、量子等の6つの分野で最も革新的な製品をそれぞれ選出するもので、今回で2回目の開催となります。

ORCA-Questは、独自の設計技術と最新の製造技術を用い、世界トップクラスの低ノイズ性能を有しているほか、光の最小単位である光子（フォトン）を2次元的に正確に計測し画像化することを世界で初めて実現した点を評価され、この度受賞いたしました。当社は、この喜びを糧に、今後も科学技術の発展に貢献する製品の開発に取り組んでまいります。



▲Category Winnerを受賞した「ORCA-Quest」(左) とこれを用いて撮影したウシ肺動脈内皮細胞 (右)

■常光製作所の新棟が完成

常光製作所（静岡県浜松市東区常光町）の新棟が完成し、稼働を開始いたしました。現在、科学計測用デジタルカメラや病理デジタルスライドスキャナ、半導体故障解析装置の需要の拡大が続いており、今後も売上げの増加が見込まれております。新棟では、科学計測用デジタルカメラと病理デジタルスライドスキャナの組み立てや調整等の生産機能を集約するとともに、生産スペースの拡張を図ります。また、集約により発生する既存棟の空きスペースを利用し、半導体故障解析装置の生産を拡大いたします。これにより、画像計測機器事業の生産能力を従来の約1.7倍まで増強いたします。さらに、新棟内部の構造を工夫し、レイアウトの自由度を高めることで、生産量や生産品目の変化に柔軟に対応してまいります。

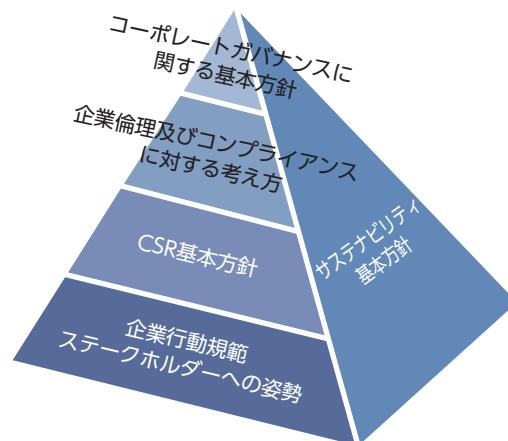


▲常光製作所の航空写真

サステナビリティ / CSRへの姿勢

当社は、経営理念を明確にした上で、サステナビリティ基本方針、コーポレートガバナンスに関する基本方針のもと、企業倫理及びコンプライアンスに対する考え方、CSR基本方針、そして、企業行動規範等を階層的に定め、倫理観と良識をもって企業活動を行っております。また、光技術を通して新しい産業を創成することにより、社会、人類に貢献し、かつ健全で信頼される企業として成長・発展することを目指しており、社会の持続可能な発展に貢献してまいります。

以下に当社のサステナビリティ / CSRに対する取り組みをご紹介します。



当社ウェブサイトにてさらに詳細な取り組みを掲載しております。

<https://www.hamamatsu.com/jp/ja/our-company/sustainability-and-csr.html>



■気候変動問題への取り組み

当社は、サステナビリティ基本方針、環境基本方針に基づき、気候変動への取り組みを重要事項と位置づけ、事業を推進しております。2020年8月には、TCFD^[1]による提言への賛同を表明し、気候変動が当社グループの事業に与えるリスクや機会、財務的影響への分析を推進し、開示しております。

また、2021年10月、当社の温室効果ガス削減目標は、パリ協定に沿った科学的根拠に基づいたものとして国際的な環境団体SBTイニシアチブから認定を受けております。当社グループでは、本目標の達成、そして持続可能な成長のため、製品開発においては省電力化や低CO2排出など環境負荷低減を進めているほか、建物においては太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーの利用を促進するなど、継続的に様々な面から気候変動問題に取り組んでおります。詳細な目標や数値は本ページ中段の当社ウェブサイトにて開示しておりますので、こちらをご覧ください。



[1] TCFDとは、2015年12月に金融安定理事会により設立された「気候関連財務情報開示タスクフォース (Task Force on Climate-related Financial Disclosures)」の略称で、企業等に対して気候変動関連のリスク及び機会に関する項目について開示することを推奨しています。

■健康経営への取り組み

当社は、社員の心身両面での健康保持・増進に向けた投資を行うことにより、企業価値を向上させるとともに、社会、人類に貢献していくことを目的とし、様々な取り組みを行っております。経営トップによる健康経営基本方針に則り、健康保険組合と連携しながら、体力測定や歯科検診、栄養教育など身体面の健康増進のほか、メンタルヘルス教育や保健師・産業医・精神科専門医への相談機会の提供など精神面での健康増進についても施策を実施するとともに、結果を取締役に報告する体制を整備しております。

また、これらの継続した取り組みが評価され、経済産業省及び日本健康会議より、2018年から5年連続で「健康経営優良法人（大規模法人部門）《ホワイト500》」に認定されております。今後も、健康経営の推進に努め、社員一人ひとりが活躍しやすい環境を整えてまいります。



▲メンタルヘルス教育の様子



■女子中高生向けイベント「夏のリコチャレ2022」を開催

当社は、内閣府が中心となって推進している、理工系分野に興味がある女子学生の進路選択を応援する取り組み「理工チャレンジ（リコチャレ）」に賛同し、女子中高生を対象としたイベントを2019年より開催しております。今年もオンライン形式で開催し、全国各地から多くの方々に参加いただきました。

当日は、当社の事業内容である「光」に関するセミナーのほか実験キットを用いたワークショップを行い、光の不思議な性質を体験いただきました。また、女性技術者との懇談会を開催し、仕事内容や働き方等を紹介いたしました。参加者からは、光技術や進路、ワークライフバランスに関する質問があったほか、理工系に進学する意欲が高まった等の感想をいただきました。

当社は、今後もこのようなイベントの開催を通じて、光の面白さや醍醐味を発信し、将来の理工系人材の育成を後押ししてまいります。



▲ワークショップの様子。絵を描いた透明板とセロハンテープ、偏光板を組み合わせ、光の性質を利用したスタンドグラスを作成いたしました。



株式事項 / 株価の推移

2022年9月30日現在

株式事項

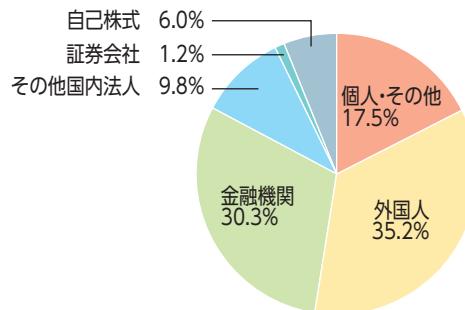
■発行済株式総数 165,052,729株

■株主数 22,934名

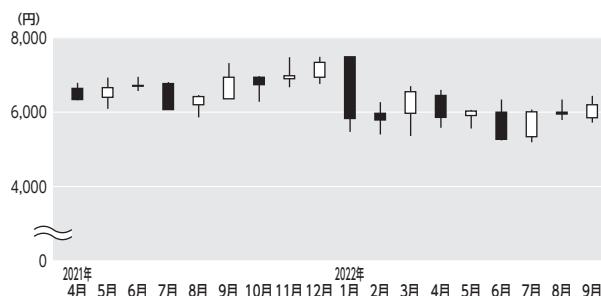
大株主	株式数
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	28,945,300株
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	8,646,200株
トヨタ自動車株式会社	8,400,000株
浜松ホトニクス従業員持株会	4,108,174株
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	3,815,019株
野村信託銀行株式会社（投信口）	2,917,800株
ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティアー 505234	2,595,587株
ジェーピー モルガン チェース バンク 385635	2,557,500株
ジェーピー モルガン チェース バンク 380072	2,371,500株
RBC ISB S/A DUB NON RESIDENT/TREATY RATE UCITS-CLIENTS ACCOUNT-MIG	1,869,600株

(注) 上記のほか、自己株式9,945,784株があります。

■所有者別株式分布状況



株価の推移



会社情報

会社情報、事業内容、国内及び海外事業所などをご覧いただけます。以下よりご覧ください。



<https://www.hamamatsu.com/jp/ja/our-company.html>

浜松ホトニクスの姿勢

光の研究及びその成果を生かした製品開発を通じて、未知未踏に挑む当社の姿勢をご紹介します。以下よりご覧ください。



<https://www.hamamatsu.com/jp/ja/why-hamamatsu.html>

株式事務などのよくあるご質問

株式に関する情報や多く寄せられるご質問とその回答をご覧いただけます。以下よりご覧ください。



<https://www.hamamatsu.com/jp/ja/investor-relations/faqs.html>

